湖北圏域水害・土砂災害に強い地域づくり協議会
第３回協議会　報告

平成２１年3月2日（月）
１４：００～１６：１０
湖北地域振興局　１階会議室

１．開　会

去る３月２日（月）に第３回湖北圏域水害・土砂災害に強い地域づくり協議会が開催されました。この協議会は、湖北圏域２市６町が、国・県と共に専門的な学識経験等に基づく助言を頂きながら、姉川・高時川等の洪水や土石流危険渓流等からの土砂災害による被害を回避・軽減するためのソフト対策を協議し、自助・共助・公助のバランスのとれた地域防災力の再構築を図るものであります。

今回は、第２回協議会にて承認された下記の検討項目に対する成果の報告と、成果に対しての議論が行われました。

【第２回協議会で承認された平成２０年度の検討項目】
- きめ細かい河川防災情報の提供に関する検討
- 広域避難計画の検討
- 自主防災組織の活動強化支援対策の検討

２．議　事（成果に対する質疑応答・意見交換）

庶務より上記の検討項目に対する成果について報告し、これらの成果について各委員から様々な建設的な意見が出ました。以下に、主な意見を箇条書きで示します。

【各委員からの主な意見】

■きめ細かい河川防災情報の提供に関する検討

・今回設置した簡易量水標のようなイメージを是非住民の住んでいる堤内地側にも設置し、河床の位置や洪水時の水位がわかるようにしてはどうか。住民の意識の向上にも繋がると思う。

・避難勧告等の発令タイミングは県の洪水予報等が参考になるが、どこのエリアに発令するのかが曖昧という問題が残っている。おおよその避難勧告対象エリアの目安をもっておくことが必要である。

・今年度水位関係表が作成されたので、今後はこれを元に各市町が避難の考え方について持ち寄り、さらには避難に関するガイドラインを作成する必要がある。このガイドラインをもとに、各市町が地区別避難計画を作成していければ良いと思う。

・本検討の目的は、沿川市町が行う避難勧告等の発令判断を支援することである。現段階では支援するには未だ充分なものでは無く、途中段階である。次なる段階としては避難勧告までにどのような情報を把握する必要があるか、おおよそどのエリアに発令すれば良いか、また沿川市

町が最終的に地区別避難計画を統一的に作成していけるだけの材料を作成頂きたいと考える。

■広域避難計画の検討

・相互利用可能な避難所をリアルタイムで把握することは重要であるが、なかなか難しい。しかし、そのような心構えでいることが重要である。避難所の開設可能性に関するリストアップを事前に整理しておくことが必要なのではないかと思う。
・今ある資源を列挙して、足りない部分は今後対応していかなければならない。虎姫町だけではなく、湖北圏域全体としてのリソースを把握することが必要である。
・締結協定書の検証として、実際の避難所の相互利用を想定した訓練も必要と考える。
・北陸自動車道の活用について、是非とも継続して協議を進めていただきたく思う。

■自主防災組織の活動強化支援対策の検討

・自主防災 WG 市町内における自治会での先進事例について調査したが、結果的に地元としては先進事例という認識は無く、「あたりまえに日々取り組んでいること」の事例としての認識であることが明らかとなった。今後ヒアリングに聞き回る等、もっと色々掘り起こしてまとめていけると新しい試みに繋がっていくものと考える。

この他にも多くの建設的意見が挙がり、非常に活発な議論の場となりました。

また、これらの意見を踏まえ、平成２０年度の検討成果について、全委員の承認を得ることができました。

３．次年度以降の展開（案）について

庶務より次年度以降の展開（案）について提案し、第３回協議会での意見も踏まえて進めていくことで全委員の承認を得ました。以下に、今後の展開（案）を箇条書きで示します。

【今後の展開(案)】

・平成 21 年度は今年度に引き続き「河川防災情報WG(仮称)」、「広域避難WG」、「自主防災WG」に分かれ、関連する市町毎に個別に検討を行っていく。なお、自主防災WGにおいては、土砂災害対策の課題抽出も含めて検討していく。
・新たに一定の地域を対象に具体の対策を定めた「水害に強い地域づくり計画」を関係住民の参加を得て策定していく。
・各WGでの検討結果は、この「水害に強い地域づくり計画」に反映させていく。
・平成 22 年度以降、策定された「水害に強い地域づくり計画」を基に各主体が実践していく。

４．閉　会

滋賀県としては市町へ有用な情報をできるだけ提供していきたいと考えておりますが、その際には、市町の欲しい情報と摺り合わせをしていく必要があります。防災の対応は終わりがあるものではないので、今後も着実に一つ一つ課題を解決していければと考えております。